

支援機関の活動紹介②

あいち産業振興機構

「製造業が多い愛知県の特徴を踏まえ、5回(全期間3ヵ月)にわたる『B2B Webマスター養成講座』を開設しています。ホームページを営業マンに育てることが目標です」

愛知県全域を対象とする支援機関・公益財団法人あいち産業振興機構の情報・国際ビジネス部 情報推進グループ専門員の日沖純一氏はこう話す。

同財団は、中小企業のワンストップ支援機関として新事業支援や国際ビジネス支援をはじめ、大きく八つの支援メニューを持つ。今年度は中小企業・小規模事業者のための経営相談所「よろず支援拠点」の機能も



9月11日に開催したLINEビジネス活用セミナー(講師:松浦法子氏)の様子。志治孝利理事長が挨拶

果たしている。

IT活用支援に関しては、冒頭に挙げたWeb活用支援、時流に即したテーマセミナー、IT担当マネージャーによる相談(システム構築の相談など)。ITコーディネータ山田和久氏が柱となっている。

●少人数のネット活用研修で きめ細かくサポート

Web活用支援の研修会は有料で定員10社(1社2名まで)の少人数制。中小製造業におけるネット活用のパイオニアとして知られる村上肇氏を講師に、講座終了までにホームページの基本形を作成する。日沖氏は内容を次のように説明する。

「講座では各社の強みを洗い出し、その裏付け(技術内容や製造ノウハウなど)を明確にして、どんがった情報提供を目指しています。経営者の方々は『すべてPRしたい』『何でもできる』と、幕の内弁当に仕上がりがちなのです」



情報・国際ビジネス部
情報推進グループ専門員
日沖純一氏

実際、幕の内弁当型のページは、相見積もりの依頼はくるものになる。

「B2B Webマスター養成講座」の内容(2014年度分 全5回)

- (1)Webで無敵に! 顧客の創造で選ばれる中小企業
- (2)確実に伝わる「ネット営業所」企画設計
- (3)ネット営業所ラフデザイン作成
- (4)中間報告会とWebマーケティングの極意
- (5)最終報告発表・お客様対応の秘訣

10月3日に第4回目を迎えた「B2B Webマスター養成講座」の様子

(写真提供:あいち産業振興機構)



経営者の納得のもと「得意技」をネットで伝える

約に至らないケースが多いという。そこで、研修会にはできるだけ経営者とIT担当者の2名で参加してもらい、その場で経営者の承諾を得るよう配慮している。

また、「何年も事業をしていると自社のことは見えなくなりがちです。講座では他社の方との交流によって、強みの再発見やわかりやすい表現を見出していだだいていきます」(日沖氏)という。

今年で8年目を迎える本講座は、OB会の実施による情報交流に加え、本年度からは参加企業への訪問アドバイスも行うなど、フォローアップにも余念がない。成果を出した「卒業生」が知り合いの企業に講座を紹介するなど好循環が生まれている。

日沖氏は、「取引が1社依存の企業

が強みをホームページでPRしたところ、別の業界から受注を得た例もあります。自社技術が評価されて刺激を受け、社内のモチベーションが上がったそうです」と話す。

そのほか、トレンドを意識したセミナーとしては、9月11日に「LINEのビジネス活用セミナー」を開催。冒頭では理事長の志治孝利氏が「小規模事業者の皆様の課題は売上アップ・販路拡大と言えます。機構では、販路開拓への支援をますます強化していきます」と支援方針を伝えた。

地域産業の特性を踏まえ強みを引き出すIT活用支援が、あいち産業振興機構の特徴といえる。

支援機関の活動紹介③

浜松商工会議所(静岡県)



会員共済課 課長 鈴木純一氏(写真左)
同課 川口聖代氏(右)

浜松ホームページコンテストの開催をはじめ、ホームページ活用支援で実績を積み重ねてきた静岡県の浜松商工会議所。2年前の組織改編によってIT活用支援を専任で行う部署はなくなりましたが、共済や検定試験など会員向けサービスの窓口となる会員共済課が、専門家との連携によって新しい支援方法を模索している。

会員共済課長の鈴木純一氏は次のように説明する。

「ITに関する直接支援が薄くなりがちですが、専門家の皆様の提案もいただきながら、やる気のある企業への深い支援、一般論ではなく、即

使える、情報提供に努めています」

その一つが12月に開催する「中小企業ホームページ診断」である。

参加を希望する企業に事前にヒヤリングシートを記入してもらい、4名のITコーディネータ(以下ITC)がホームページの診断結果を持ち寄りカルテを作成。その後、企業ITCの2者で面談し、アドバイスをを行う個別支援である。

面談後、希望する企業は2回まで同じITCに有料で指導を受けることができる(個別トレーニング)。

「初めに健康診断をしてカルテを作り、次に、改善目標を達成するトレーニングのお手伝いをするイメージです。3回目まで進んだ企業の方々は満足度も高くなっています」と担当の同課・川口聖代氏は笑顔で話す。

●IT活用支援の入口となる インターネット活用研究会

もう一つのメニューが、継続して実施している「インターネット活用研究会」である。内容は毎年工夫を重ねており、今年度はITC和田喜充氏の提案もあり、①ライブ型ホームページ診断と、②情報交換会の2部構成をとっている。

①は、希望者のホームページを研究



10月16日に開催された「インターネット活用研究会」少人数制で、参加者のホームページを例に具体的な改善ポイントに踏み込む(写真提供:浜松商工会議所)

会の場で専門家が診断し、参加者も意見を述べるといった双方向のスタイルだ(開催は月に1回程度)。「包み隠さず腹を割ってメッタ斬り」にする公開コンサルです」と和田氏。川口氏は「愛のあるタメ出し」と表現する。

实例をもとに改善方法を指摘するので、当該企業も参加者もネット活用の本質を実践的に理解できる。ただ、「公開コンサル」は同時に専門家の力量も「公開」される。実はそれも目的の一つだという。

「1対1で行う専門家の個別支援は、敷居が高いものです。この研究会で専門家が何をしてくれるのか、どこまで話を聞いてもらえるのかを体感いただくことで個別支援への入口ができると考えています」と川口氏。

専門家の仕事を広報することにも



ITコーディネータ
和田喜充氏

浜松ホームページコンテスト審査員を務めてきた。研究会の進め方などに提案を行っている

2回は本誌「COMPASS」をテキストに記事の読み合わせも行ったという。

「ホームページ以外のIT活用例、浜松地域だけでなく全国の事例を学び合うことで企業の方も専門家も幅を広げていけると思います」と和田氏は話す。

枠にとらわれず、多様な方法にトライするのは「やまもいか」(やってみよう)をモットーとする浜松の面目躍如といったところだ。

研究会参加企業への新しい支援メニューとして、ホームページに訪れたユーザーの生の感想が聞けるモニターテストのサービスも検討中とのことだ。

ライブ型ホームページ診断で実践的支援

一役買っているようだ。

②の情報交換会は、IT活用の潮流を学ぶ場である。

意見交換のきっかけづくりとして、こ